



リタイア以後

濱本康男(元)黒崎播磨



1. はじめに

あけましておめでとうございます。令和も3年となって、令和という言葉を使うのにもぎこちなさがなくなり、令和という年号を発表した菅さんが昨年総理大臣となりました。日本はバブル崩壊以降沈滞気味の時期が続きましたが、菅総理もそして元気潑刺とされた新しい天皇陛下も「日本の発展のために全力を尽くす」と言われており、令和は日本が再生、新生した時であると歴史に刻まれて欲しいと思います。一方、この原稿を書いている12月、世界ではほとんどの国において第二波三波のコロナウイルス感染症の大流行が続いており、欧米を中心に毎日60万人、日本でも横ばい傾向とはいえ2500人の新規感染者が発生しています。医療崩壊は絶対に防がなければならない一方、緊急事態宣言を再発動すれば、国民に再び筆舌に尽くしがたい苦痛を与えることになり、有効なワクチンが流布するまで全国民がそれぞれの持ち場で努力し続けなければならないと思います。

このような大変な状況ではありますが、ここでは、私が社会活動から退いて以降やってきたこと感じたことをいくつか紹介したいと思います。入社以来、仕事以外のことには関心も薄く、時間を割くこともなく過ごした(おそらく皆さんも同じだと思いますが)私にとって、毎日が休暇という生活にはたいへん困惑しました。カルチャースクールで、「陶芸」「英会話」「リコーダー(縦笛)アンサンブル」を始めましたが、「子供や学生の頃に好きだったこと手を染めていたこと以外は長続きしない」と言われているとおりで、「英会話」「陶芸」は一年で終了しました。また中学高校生の頃好きだったリコーダーは、残念ながらコロナ問題で終了しました。自分でも昔から好きで心惹かれるところがあっ

た「旅行」「花」「写真」さらに「ゴルフ」には相当に「はまり」、充実した時間を過ごせたと思います。

2. 手作り海外旅行など

前から行きたかったスコットランドに16日間、ニュージーランドに14日間、イタリアドロミテに7日間のレンタカーの旅を、インターネットを使ってルート、宿、交通機関、すべて自分で決めて予約して行きました。よく「計画がいちばん楽しい」と言われますが、まさに「心ときめく至福の時間」でした。そしてチェコ、南米など含めてこれらの旅行は、私の人生のハイライトというべき素晴らしい経験でした。印象深い場所は数限りなくありますが、特にスコットランドのアイリーン・ドナン城、スイスの逆



逆さマッターホルン



イグアスの滝(ハリポタから)



トレチーメ (高さ 500m)

さマッターホルン、ドロミテのトレチーメ、南米のイグアスの滝等が心に残っています。スコットランドでは、荒涼とした風景の中に、まさにつわものどもが夢のあとと言うべき、イングランドとの血なまぐさい歴史の跡があちこちに残っており、「グレンコーの虐殺」は高校の教科書にも載っていました) 今も独立派が約半数を占めていることを実感しました。一方、旅の途中では、ヴェネツィアの渡し船ですりにあったり(日本人は「お客さん」のようです)、ニュージーランドの山奥で車がハンドルロックとなって途方にくれたり、ドロミテでは危うく道路を逆走しそうになったり、危ないこともありました。海外旅行は体力的に難しくなってきたので、今後は「国内の手作り小旅行」を続けたいと思っています。

3. 庭の花壇化

次に来たのは、「庭の花壇化」です。なぜか、小学生のころ花に心惹かれた時があり、近くの家で咲いている花を歩いて見て回ったりしていました。退職後はとにかく時間だけはあるので、父が作った和風の庭に10~15㎡のミニ花壇をいくつか作ることにしました。旅行と同じで、



ロックガーデン



森の花壇

これも「ああしたらどうか、こうしたらどうか」と計画する時がとても楽しい時間でした。庭の木を8割がた伐採して(これは植木屋に頼みました)、残った木の根を掘り出し、土を30cmほど掘って篩にかけ、肥料、腐葉土、石灰を混ぜました。そして、仕切りや小道を作って、2年がかりでローズガーデン、ロックガーデン、森の花壇など10のミニ花壇を作り、ここに約700本の草花と低木を植えました。花の数が最も多い5月には、心優しい方からは「天国のようだ」とおっしゃっていただけることもあります。もっとも家内からは、あなたがやっているのはガーデニングというより、単なる「買っちゃ植え」だと言われています。花壇は、手を入れれば入れただけ美しくなりますし、花は人間と違って文句も言わず雨風にもじっと耐えてけなげに咲いてくれます。今後も、マイペースで永く続けていくつもりです。

4. ゴルフ

ゴルフにもはまりました。私は47年入社だったからか、アウトインのどちらかは47という時が長かったのですが、退職時はスコア105~110まで悪化していました。あわよくば80台で回れるようになりたいと、この3年間、用事のない日はほとんど練習に行っています。用事はほとんどないので、ほとんど毎日行っていることになります。やっと100は切れるようになりましたが、莫大な練習投資はほとんど未回収です。一方、同時にゴルフを始めた家内は、私のアドバイスにより?着々と進歩して、いまやドライバーの飛距離は、私と同じ160ヤードです。練習場では、同年配の方が「こんなはずはない。もっと飛ぶはずだ」と、

めいっぱい力んでクラブを振り回している姿を頻繁に目にしますが、おそらく私もそうなのでしょう。3年かかって得た最大の教訓は、「とにかく手に力を入れないスイングをしなければ何をやってもむだだ」ということでした。「健康であれば、年齢を重ねるほど、エージシュートは容易になる」と思うので、今後も努力を続けるつもりです。

これらの経験から、リタイア生活についてたどりついた結論は「リタイア生活はまったく恐くない。趣味（もちろん社会貢献や勉強などでもよいと思います）を仕事のように没入してやればよいだけのことだ」ということでした。しかし、山登りのように体力を要するものは徐々に不可能になってゆくの、体力を要しないアイテムを追加してゆくことが必要だと思われま

5. 最近の日本について

一方日本を省みると、平成末以降のこの数年間は、いくつかの残念な出来事もありましたが、日本全体としては再生の方向に向かっていたと感じます。この間企業の収益は中小企業含めて大幅に改善し、全国の経常利益率は2倍以上に向上しました。これにより、かつて最も重要な社会問題のひとつであった「大学を出ても就職先がない気の毒な就職浪人の発生」はほぼ完全に解消され、税収の増加により新発国債は減少傾向となりました。自殺者は32000人から減り続け平成元年は20000人でした。外交的にも、アメリカとかつてない良好な関係が築かれ、中国、ソ連、アジア、ヨーロッパ諸国との関係含めて、大きく改善したと思います。韓国との関係も、現在の日本の「論理的合理的な主張と交渉を続ける」という方針により長期的には改善の方向に向かうと私は感じます。

6. これからの日本について

一方、昨年初頭からの全世界でのコロナウイルスの蔓延、異常気象によるこれまた全世界での洪水山火事などの災害多発、各国がそれぞれ

にエゴを前面に押し出している「世界の分散化」と「紛争の多発」等、日本の行く末について心配な事象が次々におこっており、既に日本経済にも甚大な影響を及ぼしています。

しかし日本は、これまで国の危急存亡の時には、普段のおとなしい、たよりなさそうな風貌を捨てて、信じられないような、団結力と創造力と実行力を発揮してきたと思います。一回目は明治維新です。二回目は戦後の奇跡的な高度成長であり、これにより日本は世界第2の経済大国となりました。そして韓国も中国も日本モデルを踏襲しました。これらはいずれも、「日本が滅びるかもしれないという危機感と自国への愛着」が、その原動力だったと思います。今でもその時の場面をはっきりと思い出しますが、昭和47年入社直後に先輩にお会いした時、冗談で「斜陽の鉄鋼業に入るやつがまだいたのか」と言われました。しかし、鉄鋼業もまた幾度となくあった存亡の危機を、鉄鋼生産販売への深い愛着と思い入れと、それによる危機感の共有と自助努力で乗り切り、今も日本の基幹産業の一角を占めています。

鉄鋼業の再生のように、日本人全員が再び、団結力、創造力、実行力を発揮して三回目の維新、「令和維新」を実行し（コロナウイルス感染症対策含めて）、日本を発展させて、より平和で豊かな生活を実現しなければならないと思います。このためには、まず、情緒を排して、世界と自国についての厳しい現実を直視し、危機感を共有して行動することが必要ではないでしょうか。

7. 最後に

最後に私事で恐縮ですが、この5年間の旅行、ガーデニングなどで撮り続けた写真が52000枚になりました。コロナウイルス感染が終息した後に、人生最初で最後の写真の個展を、家内の絵の個展と一緒にやりたいと思っています。お時間がありましたらぜひお越しください。